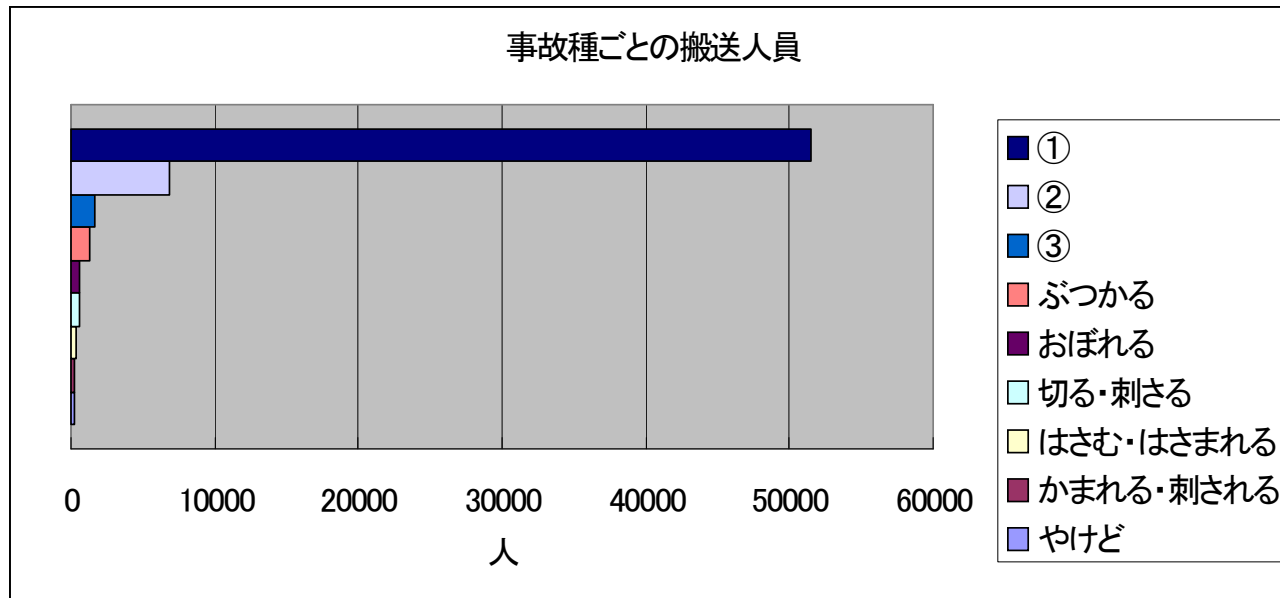


リスクマネジメント研修 高齢者の事故の特徴



東京消防庁「救急搬送データから見る日常生活の事故 平成28年」より
「65歳以上の事故」の事故種別年間搬送人員です。

問題 ①、②、③はどのような事故種でしょうか？

ヒント (つまづく、ころぶ、あたる、つまる、おちる 等)

正解

① ころぶ ②おちる ③ものがつまる等

	ころぶ	おちる	ものが つまる等	ぶつかる	おぼれる	切る 刺さる	はさむ はさまれる	かまれる 刺される	やけど
救急搬送人員(人)	51,488	6,863	1,703	1,337	535	533	323	254	211
中等症以上の割合(%)	39.4	45.4	52.3	20	99.3	16.4	33.7	9.4	32.2

65歳以上の事故の場合、
他の年代と比較すると重症化しやすい傾向がある。

	ころぶ	おちる	ものが つまる等
1位	道路	①	食物
	13,389人	3,354人	424人
2位	廊下	ベッド	おかゆ類
	2,056人	1,061人	110人
3位	段差	椅子	②
	2,017人	499人	102人
4位	①	脚立・踏み台・足場	餅
	1,908人	399人	88人
5位	玄関	エスカレーター	薬剤等
	1,843人	261人	85人

事故種ごとの事故発生の多かった要因ベスト5です。

問題 ①②に入る要因は何でしょう？

正解

①階段 ②包み・袋

小さな包みや小袋も意外と事故につながりやすいのですね。
「ころぶ」事故では**道路、廊下、段差**で多く発生しています。
「落ちる」事故では、**階段、ベッド、椅子**が多くなっており、

また、表にはありませんが「おぼれる」事故は、
そのほとんどが浴槽で発生しています。

高齢者の日常生活における事故の傾向を確認しました。
さて、皆様の職場では、どのような事故が想定されますか？

事故が起こる可能性について？
なるべく5W1Hを意識して、
(誰が、いつ、どこで、なぜ、どうして、どんな…)
グループで考えてみましょう(5分)。

例) Aさんが、夜間に、尿意をもよおし、一人でトイレに行こうとして、
ベッドから降りようとして転落する…

ハインリッヒの法則

アメリカの技師ハインリッヒが労働災害の事例の統計を分析した結果導き出した法則です。

次のカッコに入る数字は？

1つの重大災害の背景には軽症の事故が（ ）あり、
無償災害（ヒヤリハット）は（ ）ある。

正解

1つの重大災害の背景には軽症の事故が（ 29 ）あり、
無償災害（ヒヤリハット）は（ 300 ）ある。

一つひとつのヒヤリハットを軽視することなく、全員で共有化することが大切です。その背景には事故につながる要因が隠れています。

ヒヤリハット報告を書いたら、一つの例でも全員で共有し、原因を究明し、防止対策を検討することが事故予防の基本です。

【参考文献】

- 1) 東京消防庁ホームページ 「救急搬送データから見る高齢者の事故～日常生活の中での高齢者の事故を防ぐために～」

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/topics/201509/kkhansoudeta.html> (2018.6.20閲覧)

- 2) 山田滋, 下山名月: 安全な介護ーポジティブ・リスクマネジメント, 筒井書房, 2004.

教材制作

目白大学 教授 荏原順子

お疲れさまでした。